

JR室蘭本線立体交差橋の整備

〔登別市・新規〕

■ 現状と課題

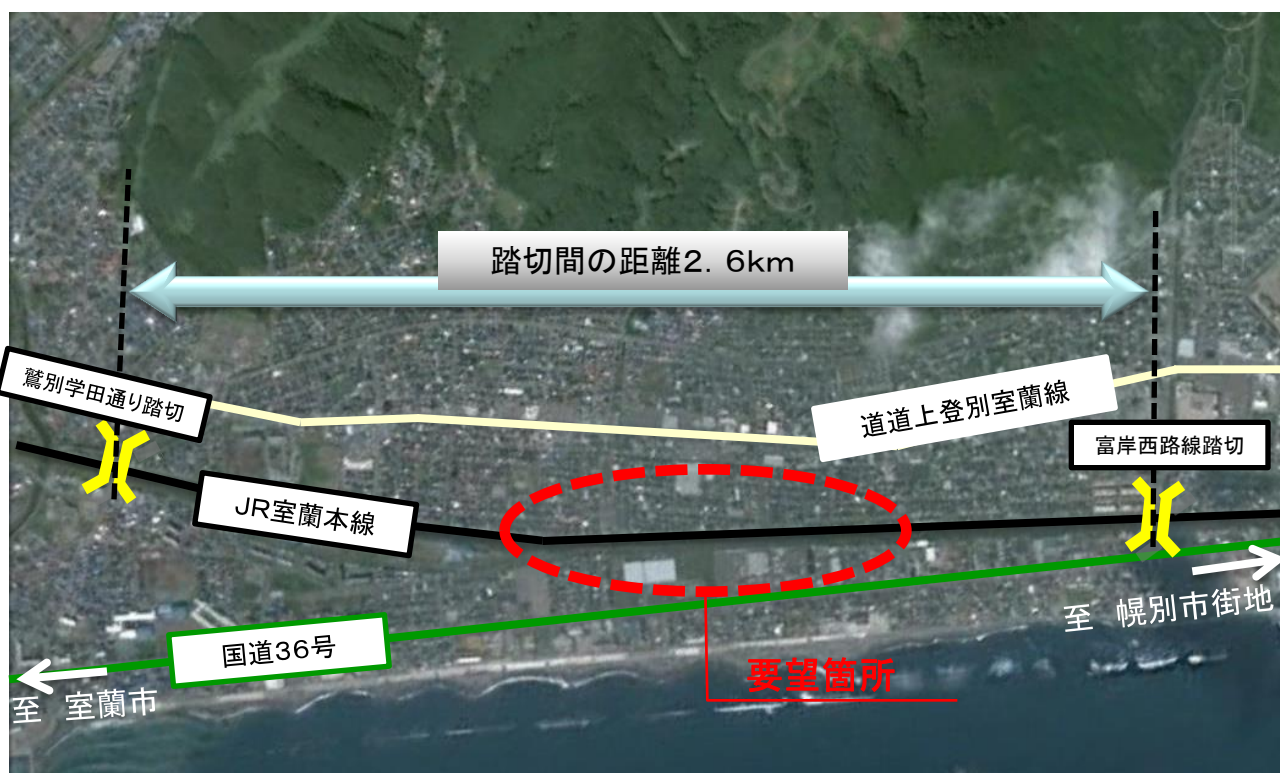
当該地区は、JR室蘭本線を挟み国道36号と道道上登別室蘭線が並行に走り、JR室蘭本線の山側の若草町・新生町地区は、近年、区画整理事業により人口の急増、商業施設の集積など急速に市街地が発展し、交通量が増大している地域であります。

国道と道道のアクセスには既存の踏切がありますが、踏切間の距離が2.6kmと長く、また、踏切遮断時間が長いことなどから、国道と道道とのネットワークが弱いため、道路網の整備としてこれらの幹線道路を結ぶ立体交差橋が必要であります。

また、津波災害において、栄町地区の住民や国道36号の利用者等の避難道路が必要であることから、JR室蘭本線を跨ぐ立体交差橋が必要であります。

■ 要望内容

- JR室蘭本線立体交差橋の事業化に向けた検討



■ 事業効果

- 道路網確保による交通アクセスの向上、物流経路の確保
- 災害時の安全性の確保、避難路・迂回路の機能確保